

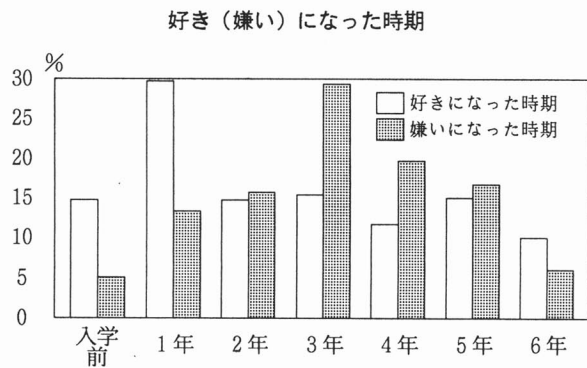
「算数に対する好き嫌い」は、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童は、全体で61%であり、学年別では次の通りである。

4年…73% 5年…56% 6年…53%

学年が進むにつれて、「算数嫌い」な児童が増えてくる。

では、児童は「いつ」「どのような理由」で好きになったり、嫌いになったりするのだろうか。

好きになるのは1年・嫌いになるのは3年

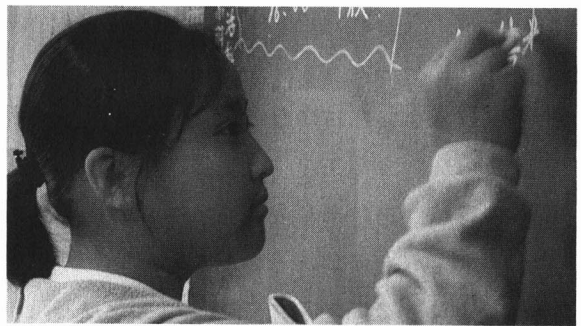


上のグラフから、好きになる時期が1年、嫌いになる時期が3年と答えた児童が最も多く、それぞれ3割を占めている。

小学校3年生で算数嫌いになる児童が最も多いことは、前年度実施した『中学生の学習に対する意識と行動』の調査でも明らかになったことであるが、なぜなのだろうか。

記述による回答は次のようになっている。

・「好き」になった理由	
計算ができる	40%
わかる・できる・楽しい	37%
・「嫌い」になった理由	
難しい・意味が分からない	48%
計算が苦手	35%

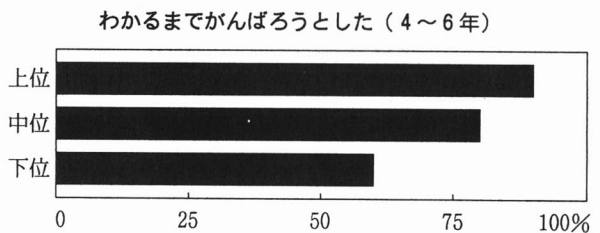


記述による回答によれば、好きになったり、嫌いになったりする理由に、どちらも計算の学習があげられている。また、算数嫌いが最も多いのが3年生であることと合わせて考えると、3年生以降に学習する四則計算が、好き嫌いの主な理由と考えられるのではないだろうか。

3年生では、乗法九九を用いて、2位数や3位数に1位数及び2位数をかける乗法を学習する。また、3年生で除法を学習し、4年生までに整数の四則計算を完成させることになっている。児童にとっては、確実にこれらをのりきるかどうか重要になっているのではないかと考えられるが、今後明らかにしていかなければならない。

(3) 下位児の意識と行動

授業の中で、児童はどのような意識を持っているのだろうか。また、自主的な行動がとれているのかどうかを探ってみよう。



授業中の「わかるまでがんばろうとする」意識は、上位児、中位児と比べ、下位児は低く落ち込んでいるように思える。しかし、見方を変えれば下位児の58%が「わかるまでがんばろうとした」と回答していることは、注目に値する。